

平成 29 年度 保育園・学校課題検討委員会（第 3 回）会議録概要

1 開催日時 平成 29 年 10 月 24 日（火） 午後 6：30～8：00

2 場 所 飯山市役所 4 階 全員協議会室

3 会議の経過及び発言

1 開 会

（事務局）

ただいまから、第 3 回の保育園学校課題検討委員会を開催します。

お手元の次第に沿って進めたいと思います。よろしくお願いします。

2 教育長挨拶

みなさん改めて、こんばんは。

日が短くなり、また、台風の被害が飯山にも出ております。そのような中、お集まりいただき感謝しております。また今日は 3 時過ぎから、市街地の 2 園を視察させていただきました。参加された委員の皆様、ご配慮いただいた園長の皆様、ありがとうございます。よい視察ができたと思っております。

本日 3 回目ということで、具体的な話に入っていくかと思いますが、ご意見をいただきながら、よりよい方向性になればよいな、と思っております。よろしくお願いします。

それから飯山市教育委員の異動がありまして、田中妙子委員が任期満了により 10 月で退任され、新しく元泉台小学校校長の吉越邦榮さんが教育委員になりました。また教育長職務代理と言うことで、この 12 日から任期に入り、本日も早速、保育園の視察に同行していただきました。これからまた皆様との話し合いへの参加となりますが、よろしくお願いしたいと思います。それでは先生、一言お願いします。

（吉越職務代理）

みなさん、こんばんは。ただいまご紹介いただいたように田中先生の後任と言うことで、10 月から教育委員会委員を拝命しました吉越邦榮と申します。飯山市のこどもたちにとって、より良い方向が見いだせるように職務を遂行してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

3 委員長あいさつ

みなさん、こんばんは。お仕事でお疲れのあと、時間を頂戴して審議を継続していきたいと思っております。

教育長挨拶にもありましたが、本日は2園を見学させていただきました。ご配慮いただきありがとうございました。それでは審議に入りたいと思います。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは早速ではありますが議事に入りたいと思います。

進行について委員長さんお願いします。

(委員長)

それでは議事に入ります。

本日視察に参加いただいた委員から感想をお聞かせいただけますか。

4 議 事

(1) 保育園視察の感想について

(A委員)

一か所の保育園のみでしたが、初めて見せていただきました。

各年齢別にそれぞれ部屋が分かれ、保育士が配置されて、園児そのものが元気に明るく過ごしている様子をみました。園長先生の説明を受け、専門的なことはわかりませんが、かなり整備されている感じをうけました。場所的に送迎と言う問題もあって、駐車等改善の課題があるのかもしれないと感じました。以上でございます。

(B委員)

今回初めて、A園の2階3階部分を見させていただきました。送迎の駐車が縦列で渋滞になると聞いて大変そうだと感じました。B園では、とても広々している印象を受けました。送迎の道路使用許可も必要と聞いて、子どもを通わせている園と比べてしまいますが、大変だと感じました。

(C委員)

2園を視察しました。初めて、A園に入らせてもらいましたが、未満児が多くいるなという感じを受けました。昭和51年竣工ということですが、各部屋のトイレ設置や、廊下・階段の位置など工夫されており、当時これほどの図面がかけるといのはすごいと感じました。B園は、外観は新しく見えたが、内部はやはり古さを感じました。園児が少ないのか広々とした印象を受けました。

どちらの保育園も気になったのは送迎の部分で、暗黙のルールで一方通行になっているという話を両園で聞きましたが、知らなければ交通ルール上の問題がなくとも、(暗黙のルールの)一方通行を逆走しているとも思われ、危険を感じました。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。3名の委員から感想をお聞かせいただきました。

それでは次第の(2)へ進めたいと思います。

(2) 保育園アンケート結果（しろやま保育園・あきは保育園）について

(事務局)

前回の会議で、市街地2園での保護者会長からアンケート結果について説明いただきましたが、本日それを、お配りしたということです。

補足等説明がありましたら、お願いします。

(D委員)

簡単に説明をさせていただきます。

第1回目の検討会議の内容をふまえて、統合や混合保育についてストレートに聞いてみました。まず、1番目の「統合について」というところでは、いろいろな意見があり、アンケート結果だけでは言えないが、賛成意見としては「親の気持ちとして年齢が上がるにつれてある程度の集団生活をしてほしい」「入学を見据えて大勢の環境で過ごしてほしい」が多かったです。反対意見の方も「家庭の事情もあるのではないか」という意見がありました。どちらとも言えない、の意見が一番多いのですが、「統合したら少しでも悪いところもある」ということで、漠然とした不安を持たれている方もいました。先ほどから出ている送迎も不安要素の1つです。それから「子どもの人数が統合したからと言って都会に比べると多くはないと思いますが、現状より増えることで流行する病気の罹患もあるのではないか」という意見もありました。

2番目「異年齢児の混合保育について」についての賛成意見では「学校に入ると学年別でクラスが分けられるので異年齢児の中で育つのは園でしかない。」という意見。

反対意見では5名の方がおりましたが「先生にとっても負担では。」「年齢により考え方が異なる子どもたちが無理をしてしまうのではないか。」の意見、保護者の想いがありました。どちらとも言えない、の中では、ご自分の経験から「なじめない子がいるのでは」などの心配の声がありました。

3番目として「2つの園が統合されたとしたら望むものは」ということでは複数回答で、ここに示している通りですが、「いじめが増えることのないように」という意見。それから多くの保護者が回答していましたが「現状に満足しているため、統合しても質の維持をお願いしたい」という意見がありました。

最後に「そのほかに要望があれば」ということで質問しましたが、「子ども達の保育環境が変わることがあるとしたら、早めに教えてほしい」「保護者の立場では北と南にあったほうがよいのでは」「自分の経験から（市外の一クラスの人数が多い保育園にいたが）、

先生はいじめに気づいてくれなかった。気づいていないところで悲しむ子どもが出ないようにしてほしい」といった意見がありました。

親として何が一番かというのは、子どもたちが痛い思い・悲しい思いをすることがないよう、安心安全が一番と感じております。共働き家庭が多いので保護者負担が減るといいなという思いがあります。子どもたちの年齢により発達差もあるので、そのあたりも考えていけたらと思っております。

(委員長)

安心安全と言うお話がありましたが、送迎の面も含めてというお話ですね。

両保育園のアンケート結果について説明いただきましたが、結果を踏まえながら委員のみなさまに議論いただければと思います。

E委員から何かありますか。

(E委員)

アンケートをとった当時は、年長児など園児数が少なく、行事なども他園と合同で行った方がよいのではという意見がでていた状況でした。その当時の結果として、行事の合同開催は行わなかったのですが、アンケートの主な意見としては、小学校に向けて交流保育を増やしてほしいという意見がありました。

アンケートから1年が経ち、園児も保護者も変わりましたので、それぞれの思い等、またアンケートも必要かと思っています。今後、子どもの通う園でアンケートを取るとすれば、B園とアンケート項目を揃えて行うのがよいのかな、と思いました。

保護者の雰囲気としては、園児数が年齢ごと10名前後で安定しているので、今の保護者にとって「すぐ統合」という感覚はなくなっていると感じます。

11月13日の保育参観で保護者が集まるので、今後についてアンケートをとりたいという話をしていきたいと思います。

(委員長)

報告ありがとうございました。

それでは(3)保育園の課題整理について、事務局からお願いします。

(3) 保育園アンケート結果について

(事務局)

前回の会議では、事務局からの課題のほか、保育園・保護者それぞれのお立場から課題と思われること、又、保護者アンケート結果から課題と思われることを出していただきましたが、本日はそれを受けて委員の皆様から意見を頂戴できればと考えております。

資料2枚目に保育園の課題等についてということで、このほかにも課題はあろうかと思いますが、まとめてございます。

「少子化、過疎化に伴う園児の減少」と言うことで、混合保育については、アンケートから良い部分悪い部分出ているかとは思いますが、現実的には子どものいないクラスが出てきています。それから園児数が今の状況で推移するのであれば、まだ良いかもしれませんが、将来的に子どもが減っていく見込みがあるとする、現実として本年度、しらかば保育園が休園しているという事実もございます。

それから何度も説明してございますが、未満児の入園が増えてきているということ。保育士については、不足している状況だということ。

これが究極になると、待機児童と言う話が、都会だけの話ではなく飯山市においても発生する可能性がでてきているということです。

次に施設の課題と言うことで、飯山市全体的に保育園の老朽化が進んでいる実態もあります。特に公立の場合には昔の基準で作った園がほとんどということで、未満児の受け入れについては対応できていないという状況でございます。

また飯山地区の課題と言うことであげておりますが、公立・私立・幼稚園あわせて4園あります。他地区は1園で、多くの子どもたちが、その園から地区の小学校へ進学していく状況ですので、飯山地区については特殊性があるということです。B園のアンケートでも具体的に出ておりますが、統合といった面で、果たしてそれだけの園が今後必要なのかという長期的な課題もあろうかと思えます。

全市的な課題で見ますと、園が1つという地区についても、場合によっては、この状況が進んでいくと同じような課題が出てくるのではないかとと思われる点、ただ、そうは言っても、地域にある保育園の役割というのもありますので、課題だけではないが、こうした部分が検討の柱になってくるのではないかと整理させていただきました。

これについて、委員の皆様から意見をいただければと思います。

(委員長)

ありがとうございました。事務局から保育園の課題を整理していただいたわけですが、委員の皆様からご意見、ご質問等をいただけたらと思いますがいかがですか。

(A委員)

素人の見方、考え方を前提とした意見と言うことでお願いします。

視察した園では、各年齢別に各部屋きれいに分かれておりました。

子どもたちの1歳2歳の発育の違いが大きいということは当然考えられることですが、あそこまできっちりと分けた方がよいものなのか、お聞きしたい。

(F委員)

いろいろな考え方があると思います。混合が良い場合もありますし、年齢別が良い場合もあります。基本的には同年齢、同1グループと言うことだと思います。子どもたちの発達具合で、2歳児であっても4月生まれと1月頃の生まれの子では、おむつが取れている子と、まだまだ取れない子の違いがあり、その子たちが同じ部屋にいるというのは、年齢差ではなく月齢差でもそれだけの差がありますので、さらに上の年齢の子どもたちの差と言うのは、さらに大きな発達差となります。

その子どもたちを一緒にの部屋で見るということは危険だと思っております。

基本はやはり同じ年齢だと思っております。

私の考え方ですけれども、市街地2園が統合しても一時的なことだろうと思っております。私のところもそうですが現状で進められるのは、せいぜい5年が限度だと思っております。先ほども申し上げましたが、0歳児1歳児2歳児の混合保育は月齢差が大きすぎて無理でございます。月齢差による事故や怪我を不安視する保護者も多くおります。人数が少ない場合の混合保育は、やむを得ずでしょうけれども、基本は年齢別保育と考えております。また、5歳児と4歳児の発達差は1年の差以上に大きいものがございます。この伸び率を見逃して、4歳児と5歳児を混合保育することは、どちらにとっても損である。5歳児は5歳児の中で切磋琢磨して成長していくのが、4歳児といことでブレーキがかかることもある。年齢相応の成長発達を保障することが大事で、それができずに発達の差を無視しての積極的な混合保育は問題だと思っております。

現状として、混合保育がやむ得ないのもわかりますが、4歳児に目を配るあまり、5歳児の成長を見失ってしまうようではいけないと思います。

それからもうひとつ、二段階で飯山地区内の保育園の現状を改善していくのであれば、当面は、市街地2園が1つになるのが理想だと思いますが、その園が10年後もそれの良いのかと言うと、やがては一つになっていくことさえ考えなければいけないと思います。1つになるのが、いつの時期を目安にして考えるのか。私は、飯山小学校の近くに広さに余数を持たせた理想的な保育園を新しく造り、市街地園を一つにしていくというのが理想ではないか。それがいつか、ということ。当面は、2園で統合。しかし、いつかは飯山地区で1つということではないでしょうか。行政の判断もあると思いますが、私の気持ちとしては以上でございます。

(G委員)

B園では施設の造りの関係で、0歳児と1歳児が混合保育で、人数の関係で4歳児が2名なので、4歳児と5歳児を一緒に保育しています。

飯山市は何十年も年齢別保育を基本として行っておりますので、混合保育と言うと、人数が少ないからということと考えておりました。ですが、この頃は建蔽率の割合などから、都会の保育園では縦割り保育を実施しているところもあり、今は、人間的育ちや家庭に近づけた保育園での育ちという中では、少子化で、家庭でも兄弟間の触れ合いが

ない・少ないという現状の子育てでは、保育の縦割りと言うのも、重要な位置があるのではないかと考えるところもあります。

ただアンケート結果にもありましたが、年長児になると不安と言うのは、学校が年齢別であることと、伸び時期を見逃すのではないかという不安だと思います。

保育士の大変さを心配する声もありましたが、それこそ年齢差を考慮して保育していくという保育士の資質が、カバーしていくものだとも思っております。

(委員長)

縦割り保育と言うのはどういうことですか。

(G委員)

3歳児4歳児5歳児をグループ分けして、グループ別に食べる・寝る・遊ぶ、を同じ所で過ごすことです。

(F委員)

縦割り保育は、園によっては広い部屋をパーテーションなどで区切って、3歳児4歳児5歳児のAグループはこちらの保育室で、Bグループはあちらの保育室で、とやっているところもある。年齢は混合だけどグループに分ける。

混合保育は、たとえば4歳児5歳児全員が一緒。

(H委員)

確認ですけれども、よろしいですか。

今は、少子化・過疎化に伴う園児の減少と言うテーマのもとで、一クラスあたりの園児数が減少傾向であるので、不本意ではあるけれども混合保育が起きてきているということですね。

バランスよく園児がいれば、3歳児4歳児5歳児の混合保育は必要ないことですね。

そうした大前提のもとで話を進めていかないと、おかしいことになってしまいますので、なぜこのように課題検討されているのかと言うのは、今の混合保育は、3歳未満児が多く3歳以上児が少ないという状況で仕方なくであって、基本は年齢別保育けれども、柔軟性を持って、園児数が少ない年度は混合保育を余儀なくするというのが本来のカたちではないかな、と思うんですけれども。

(委員長)

勉強不足で、確認させていただきたいのですが、混合保育は基本的にはダメと言うことですか。

(H委員)

いえ。私が考えているのは、ダメと言うことではなく、仕方なくそうせざる得ないという意味合いですね。

(委員長)

F委員がおっしゃったように、混合保育が危険と言うこともあって年齢別にしているのだと理解しておりましたが。

(H委員)

それをカバーするのが、G委員も話してしましても、保育士の資質と能力だと思っております。

(委員長)

0歳とか1歳とかで保育園と言う状況は、厳しい現実だなと考えてしまいますが。

(H委員)

働き方改革とか、女性の社会進出とかいう政策があって、必然的に子どもを預けて、仕事を続けるというような方向性もあるので、それはいかんともしがたい問題だとも思いますけれども。その両方を合わせてどのようにしていくかということで、それが飯山市の保育をどうしていくかという話をしているということですよ。

ですから、混合保育をこれからずっとやっていこうというのではなく、混合保育をせざるえないという年度も出てくるかなということと。

(委員長)

働く両親の働く環境をサポートしなければいけない、という社会的責任が保育園にはあるということですね。

(H委員)

もちろんそうですね。ですから混合保育そのものを保育の主流にするかどうかの問題ではなくて、今の飯山市の子どもの現状としては「混合保育もあり」というくらいにしておかないと、方向性がおかしくなってくるかなと感じましたので、一言申し上げさせていただきました。

(事務局)

今の池田委員の意見もありますが、全体的に一律減少していくという状況と、今現在起きているのは、学年によりまちまちであるということ。ですから、B園は年長児が1

5人いますけれども、来年の年長児は2人。C育園では3歳児が1人。そういったような年齢のばらつきがある。その部分をどうするのか、ある程度まとまっていれば、その年度によって、縦割りも保育によってできるかもしれませんけれども。そのばらつきが1つ原因で、保育園自体は通園エリアが決まっていらないので、基本的には保護者がどの園を選ぶか、選んだ中でどのような人数構成になるかと言うのがわからないというのが大きな部分です。

少人数でも保育園として維持していきましようといっても、年齢別に保育する場合は3人でクラスとなり保育士確保に課題が出てくるということで、園児減少を課題にさせていただきました。

(F 委員)

最終的には、年齢的保育が望ましいと考えます。

そのためには、過渡的には、市街地2園を1つにしても、将来的には飯山地区で1つにするということで、方向性をみつけていきたいなと思います。

資料に各年の見込みがでておりますが、10年後はどのくらいの人数見込みになるんだろう、減衰率で見ていった時の向こう10年をみたら、2つの園、3つの園が維持できていくのか、必要なのか、というところで考えていきましようとなっているわけで、混合保育が良いとか縦割りが良いとかは技術の問題であって、やむをえざる混合保育から脱出していくには最終的にどういうところを目指していくのか。場合によっては10年後15年後を見ていったら、飯山地区の子どもだけで1つの園を運営できる人数がいなくなることで考えられます。その場合は、木島も秋津も含めて保育園をどうするか考えなければならないし、それが小学校の統廃合にも関わってくる問題です。だったら、この話の行き着く先は、将来の小学校統廃合はこうしたカタチだということを頭において、それに結びつく保育園の問題を考えていかなければならないと思います。ですから飯山地区だけの問題ではなく、全市的な問題だと思っております。

(I 委員)

今、お話をお聞きしていると、統合やむなしの方向なのかなという意見が出ていて、そうなのかなと思って聞いておりますが、理由を明確にしていけないといけなのかなというのが一点。

二つ目として統合の仕方ですが、保育園と小学校を連動して考えないといけないなと思っております。たとえば保育園一つにしたけれども小学校はいくつもあって、という、ちぐはぐな状況もどうかと思いますし、小学校はどう統合していくのかということも考えていかなければいけないと思います。

統合やむなしとも思いますが、これまで出てきた保育園保護者アンケートからも、統合のメリット・デメリットを明確にして、デメリットへの説明をしていけると、統合

反対の保護者の理解は得られないと思います。そうした整理をして、市の対策として、直接の説明責任を果たし、車座集会ではないですけども、ご意見を聞きながら伝えていくというような、丁寧な手順で進めていかないといけないと思います。

次回、そのあたりを整理した状況で検討できればいいなと思っております。

安全策を講じるあまりに、子どもたちの自己防御能力を欠いてしまうようでは問題があるかと思っております。子どもたちがたくましく育っていけるように、飯山市の保育教育をしっかりと考えていくべきだと思います。

(事務局)

市街地の統合ということで意見がでてきましたが、それについて各委員のお考えをお聞きしたいのと、全市的な状況として1地区に1園であることについての考えなど、お聞きしたいと思います。それをふまえながら教育委員会の考えを次回お示ししたいと思います。それぞれの委員からお願いしたいと思います。

(E委員)

今後、保護者へ話をするにあたり、市の方向性として統合ありきとして進んでいると説明してよいのかどうか。今のままでは、C園のみ負担が大きいような意識がありますので、今後の方向性として、飯山市に素敵な保育園ができて、というような将来的に明るいスタイルだと保護者の意見も変わってくるかと思っています。

(J委員)

物理的な統合云々の議論よりも、よりよい保育とか教育環境というものを飯山版で考えていくとすれば、原則は年齢ごとの保育が、その後の小中高へつながっていく大事な時期だと考えると、やむをえず混合保育になるかもしれないが、飯山市としての保育教育の方針としてこうゆうのがあるということ、この会議でしっかり決めつつ、それがどうゆう段階でやっていくか。10年後には混合保育として市街地だけでなく飯山市全市的に係る話となっていくときの、保育園の統合の規模が出てくるのかと思いましたが、人口論から行くと統合という話になってしましますが、そうではなくて教育的に、飯山市の保育をしっかり決める必要があると思いました。

もう一つは、保護者の皆さんが心配になるのは、スケジュールがはっきりみえてこないもので、来年・再来年の話なのか、5年後10年後の話なのかというところ。

飯山市の保育教育の方針が崩れて、統合しなければ適正な保育教育ができないということが見えてきたとき、示していかないといけないかなと思います。

E委員には、保護者の皆さんに、統合ありきというよりも、飯山市の保育として、今、こう議論されている。C園の保護者が「そうはいつでも混合保育でいいよね」ということになるのか、「成長過程で同じ年齢の子たちとの保育がいいね」となるのかということ

ろを議論してもらったらよいのではないかなと思います。

統合の話ばかりが先に進むのではなく子どもたちが、どうゆう保育で保育期を育つか、と言う大事な時期だと思うので。

施設的な部分や統合による送迎という課題は明らかになっていますが、それはハード的な話の中でクリアできる課題だと思いますので、むしろ子どもたちの保育の環境をどうするかというところ、さきほどF委員がされた話が重要な、と思いました。

(委員長)

ありがとうございました。

事務局へのお願いですが、委員のみなさんから、ご意見がでましたので、それを踏まえて行政スタイルとして飯山市の方針をどのように考えているのかご提示できるのであれば、示していただければと思います。

5 その他

次回開催は、11月15日（水）18：30 とし、閉会。